

東田地区の回遊性について

令和2年12月議会 本会議・一般質問	令和2年12月4日（金）
質問者：公明党 村上 直樹 議員	答弁者：市長

(質問)

八幡東田地区は、北九州市の歴史や文化が凝縮された地域であり、地元の人々や民間の団体がお互いに連携し、地域の歴史・文化資源を掘り起こし、保存・継承及び活用を図ることで新たな価値を創造し、にぎわいを創出するまちを目指しています。

このエリアには、世界遺産に認定された官営八幡製鐵所、北九州イノベーションギャラリーや環境ミュージアム、いのちのたび博物館といった各文化施設や商業施設が集積しており、平成30年度より、この施設が連携し、集合体として捉え、北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業を実施しており、また、各施設の回遊性も含め検討されているとしております。

新科学館といのちのたび博物館は、お互いに多くの人が行き交う施設となると思われませんが、新科学館オープン時の目標年間来館者数は50万人と聞いております。一方、令和元年度におけるいのちのたび博物館の来場者数は、修学旅行生を含め約45万人です。

そこで気がかりなのは、車両が増えることによる歩行者の安全対策です。

特に、東田2丁目交差点は、現在、歩車分離式信号となっておりますが、周辺では今後、新たな施設の開業も予定されていることから車両の増加も予想され、渋滞対策及び歩行者の安全対策が必要となります。

そこで、例えば、新科学館といのちのたび博物館をペDESTリアンデッキでつなぎ、更に、スペースワールド駅から交差点を通らずにイオンモールや新科学館に行けるといった整備が出来ないか、見解をお伺いします。

(答弁)

東田地区では、東田ミュージアムパーク創造事業として、いのちのたび博物館を中核に、環境ミュージアム、イノベーションギャラリー、美術館、児童文化科学館や世界遺産に登録された官営八幡製鐵所など、各文化施設や商業施設が連携し、観光需要の取り込みや地域の活性化に取り組んでおります。

また、2021年4月には、東アジア文化都市の主催事業として「SDGs」をテーマとしたアートフェスティバルである「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」の開催を予定しており、多くの来場者を期待しております。

一方、スペースワールド跡地におきましても、イオンモール株式会社が、2022年春のオープンを目標に、本格的なアウトレットやエンターテインメント施設からなる新施設の整備を進めることになっております。

この施設の中には、本市の新科学館も整備することから、これらの施設がオープンすると、市内外から、さらに多くの方々が東田地区にお越しいただけると考えております。

議員ご指摘の交通渋滞や歩行者の安全確保につきましては、現在、事業者であるイオンモールが、大規模小売店舗立地法に基づき、調査検討を進めております。今後、道路管理者や交通管理者との調整が行われます。

本市としましては、これを機に東田地区の回遊性を高めることにより、さらに観光需要の取り込みや地域の活性化を図り、本市の観光拠点の一つにしていきたいと考えております。

東田地区の回遊性について

令和2年12月議会 本会議・一般質問	令和2年12月4日（金）
質問者：公明党 村上 直樹 議員	答弁者：市長

地区の回遊性を高めるためには、国が提唱する居心地が良く歩きたくなる環境を官民が連携して創出し、来訪者等の滞在や交流の促進を図る、歩きたくなるようなまちづくり、ウォーカブルなまちづくりを進めることが効果的と考えております。

その推進にあたりましては、市だけでなく、地権者や様々な事業者など、関係者が連携協力していくことが重要であります。

そのための仕組みづくりや具体的な方策について協議を始めております。議員ご提案のペDESTリアンデッキの整備につきましても、厳しい財政状況、また、教育、福祉、環境など、様々なニーズがあります。そうしたものと優先順位をどうつけていくかという課題もあります。そうした事情を勘案しつつ、この中で議論をしていきたいのであります。

本市としましては、公園や道路など既存の公共空間や民間施設を最大限に活用し、訪れた多くの方々が、気軽に東田地区を巡りたくなるまちづくりを進め、にぎわいの創出を図ってまいりたいのであります。

(意見・要望)

やっぱりオープンに伴ってですね、周辺での渋滞がほんとにちょっと心配だなということですね、感じたからちょっと取り上げさせていただいたんですけども、業者さん等ともしっかり話をさせていただきながら、渋滞緩和に取り組んでいただければというふうに思いますので、よろしくお願ひします。